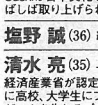

未来を創るのは私たちだ

日本を立て直す100人

小松真実（36）ミュージックセキュリティーズ代表

大学卒業後に創業し、マイクロ投資プラットフォーム「セキュリテ」を運営。震災後に立ち上げた「セキュリテ被災地応援ファンド」は、個人投資家が再建したい企業を選び、1口1万円の半額を寄付、半額を出資する

高橋菜穂子（30）山形ガールズ農場代表

横浜国立大を卒業後、山形の実家で5年間就農。「国立ファーム」グループの生産部門として09年に山形ガールズ農場を設立。女性の視点を生かした農産物の生産・加工・販売を手がけ、ブームに終わらない農業改革を目指す

舘野真知子（38）六本木農園初代グランシェフ

栃木県で8代続く専業農家の娘。農家と消費者をつなぐ場として09年に東京・六本木にオープンした農業実験レストラン「六本木農園」の立ち上げに携わる。つまめる食材屋「七里ヶ浜商店」のフードプロデュースも

中村健太（32）ウェブサイト「みちのく仕事」編集長

個性的な仕事紹介サイト「東京仕事百貨」を運営。震災後、若手フルタイムワーカーを被災地に派遣し、東北の復興に挑む人々を支える「みちのく仕事」を立ち上げ、編集長に

西居 豊（29）五穀豊穣代表 ➡P37

西辻一真（29）マイファーム社長 ➡P11

野中里菜（20）復興ガールズ*代表

岩手県立大総合政策学部2年。同大学生で5月に「復興ガールズ*」を結成し、被災企業・団体の商品をPR・販売。津波で倒れた松を使ったキーホルダーなど新商品も発案。東京・銀座のアンテナショップにも出品

堀 成夫（40）山口県・萩博物館主任研究員 ➡P33

御手洗瑞子（26）初代ブータン政府首相フェロー ➡P13

山崎 亮（38）コミュニティーデザイナー

studio-L代表。設計事務所勤務を経て、地域再生のコンサルティングなどを手がけるように。過疎の島の再生や商店街の活性化なども手がけている

教育・子ども

石戸奈々子（32）NPO法人CANVAS副理事長 ➡P37

岩本 悠（32）島根県立隠岐島前高校魅力化プロデューサー ➡P32

小林りん（37）インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢設立準備財団代表理事

カナダの全寮制インターナショナルスクールで学び、教育の機会均等の必要性を実感。1学年の2〜3割に奨学金を給付しリーダーを育てる日本初の全寮制国際高校を13年に開校予定

駒崎弘樹（32）NPO法人フローレンス代表理事

ITベンチャー経営を経て、病児保育問題解決を目指し05年に全国初の訪問型病児保育サービスを開始。10年からは待機児童問題解決のための小規模保育サービス「おうち保育園」も始める。現在、震災被災地で学習支援や屋内公園を実施中

慎泰俊（30）NPO法人リビング・イン・ピース理事長 ➡P34

高木暁子（36）学校法人高木学園理事長

トヨタ、日本ロレアルを経て、ロンドンビジネススクールにてMBAを取得。09年に父の遺志を継いで理事長に。高木学園女子高校では「女子が使いたくなるノート」や弁当など企業とのコラボ企画を積極的に進める

藤原志帆子（30）NPO法人ポラリスプロジェクトジャパン代表

人身売買問題を扱う米国のNPO「ポラリスプロジェクト」を経て、04年に日本事務所を設立。3・11後は「震災後の女性・子ども応援プロジェクト」を立ち上げ被災地での防犯支援を実施

八木砂妃子（40）OK FOOD管理人

中学2年の娘を放射能から守るために食品メーカーに産地を尋ねたのを機に、放射能汚染の少ない食べ物の情報サイト「OK FOOD」を立ち上げる。200社からの回答を掲載し、母親を中心にアクセス数は約半年で125万人

田端信太郎（36）コンデナスト・デジタル カントリーマネジャー

リクルート時代に「R25」を起案、ライブドア転職後はメディア事業を統括、「BLOGOS」や「Techwave」「MarketHack」などのサイトを立ち上げ、経営再生をリード。現在はコンデナストでデジタル部門を統括し、「VOGUE」「GQ」「WIRED」のウェブとデジタル雑誌の両面からネット上でのブランディングに適したメディア開発に取り組む

銭祝慧（42）日産自動車法務室国際法務課長

91年に中国政法大を卒業後、翌年に弁護士資格を取得。94年に日本へ留学し、慶応大で法学修士号取得。98年にNEC入社、04年に日産自動車に転職し、翌年に法務室国際法務課長。同社が日本で採用した中国人社員では初の課長となった

陳海騰（44）百度 駐日首席代表

中国国際旅行社日本部に勤めた後、92年に日本へ留学。神戸大大学院で経済学修士号を取得する。NTT西日本などを経て06年に中国最大手の検索サイト「百度」の駐日首席代表。中国人観光客受け入れや中国ビジネスの指南にも定評がある

中平健太（30）ガラパゴス社長 ➡P14

西村雅司（40）三菱東京UFJ銀行情報営業室チーフシニアコンサルタント ➡P32

原野守弘（40）パーティー CEO ➡P36

福島理恵子（40）東芝研究開発センター主任研究員

95年に東芝入社後、02年から裸眼3Dディスプレーの研究開発を担当、製品化に大きな役割を果たす。30歳で出産し、仕事に復帰

藤井良太郎（36）コールバーグ・クラビス・ロバーツ(KKR)ジャパン ディレクター

97年、東京大法学部を卒業し、大蔵省（当時）に入省。ゴールドマン・サックス証券を経て06年、KKRに入社。同社東京オフィス立ち上げに関わる。インテリジェンスの買収などを手がけ、現在はインテリジェンス取締役などを兼任

藤沢 烈（36）RCF復興支援チーム代表理事

「100年続く事業を創る」をテーマに講演・コンサルティング活動に従事。震災以降は、官民両面の立場で東北復興支援に注力。被災地の現状分析、事業企画、民間・行政連携を支援している。政府・復興対策本部非常勤スタッフ。共著に『「統治」を創造する』

前島啓二（43）山東朝日緑源農業高新技術 総経理

91年、東京大農学部を卒業し、アサヒビールに入社。北海道支社営業企画部、本社広報部などを経て09年、山東朝日緑源農業高新技術へ出向。11年から現職。日本の先端農業技術を導入して、中国農業の発展に努めている

宮澤 弦（29）シリウステクノロジーズ社長、ヤフーインタレストマッチプロジェクトリーダー ➡P36

農業・食・地域

内野加奈子（非公開）土佐山アカデミー エデュケーションディレクター

ハワイ大大学院で海洋学を学び、海図やコンパスを使わない伝統航海カヌー「ホクレア」の日本人初のクルーに。11年に帰国し、地元の資源を100年先に残すための事業を実践する社学一体の学校で講師を務める

岡崎正信（39）オガール紫波取締役

特殊法人を経て、故郷の岩手県紫波町の再生に取り組もうと決意。オガール紫波を立ち上げ、紫波中央駅前開発にかかわる。補助金による「ハコもの」行政を否定し、将来にわたって収益を生む資産を残せる街づくりを目指す

尾野寛明（29）エコカレッジ社長 ➡P12

木村敏晴（34）コロボックル代表

00年、東京大法学部を卒業し、ベイン・アンド・カンパニーに入社。ワタミ取締役、ワタミファーム社長を経て独立。現在、軽井沢を拠点に農業に従事するかたわら経営コンサルティングや地方行政の支援などを行う

小島路生（37）富山県立山町地域おこし協力隊員

慶応大から米スタンフォード大教育大学院に進み、青年海外協力隊員や国際協力機構専門家、国連児童基金職員としてホンジュラスなどで活動。帰国後、縁のない立山町で地域おこし協力隊員となり、高齢者支援や里山地域の活性化に取り組む

ビジネス

井口尊仁（非公開）頓智ドット取締役会長兼CMO

スマートフォン専用のAR（拡張現実）アプリ「セカイカメラ」を開発。カメラ機能で画面に町や名所を写すと、物や風景の上に「エアタグ」が現れ、様々な情報が示されるもの。世界中で人気を博し、300万回以上ダウンロードされている

出雲 充（31）ユーグレナ社長 ➡P31

井上美香（46）日本ロレアル副社長、リサーチ&イノベーションセンター所長

立教大理学部を卒業し、88年に日本ロレアル入社。日本人としては初めて開発責任者として、ロレアル本社研究所へ。現在、グループで初めての日本人および女性の研究所長として、日本における研究開発を指揮する

小澤隆生（39）小澤総合研究所所長

早稲田大法学部卒。ビズシークを創業し01年、楽天に売却。楽天野球団取締役などを歴任。06年に退社し、小澤総合研究所設立。ベンチャー企業への投資やコンサルティング業務を行う。NPO活動にも積極的に従事。現在、楽天顧問、CivicForce理事も兼ねる

梶原奈美子（29）キリンビール社員

外資系企業より転職後、ノンアルコール・ビールテイスト飲料「キリンフリー」を開発。11年10月上旬からはアメリカへの輸出も決まり、現地での交渉、プレゼンなども担当している

片岡一司（44）マツダ パワートレイン開発本部エンジン性能開発部主幹

91年、マツダ入社。ガソリンエンジンの希薄燃焼技術の研究の後、ディーゼルエンジンの排ガスクリーン化・低燃費化技術の開発に従事。来春導入予定の新エンジンの開発にはコンセプト立案時から携わり、世界一の低圧縮比を実現し、現行比約20%の燃費改善も達成した

片桐孝憲（29）ピクシブ社長

自作のイラストや漫画を投稿できるネット上のコミュニケーションサービス「pixiv」の運営会社ピクシブ社長。サービスは海外でも人気で、現在の会員数は380万人、投稿された作品総数は2300万作品にのぼる

黒瀬友和（39）ユニクロ上海グローバル旗艦店店長

ユニクロ入社後、池袋店や銀座店で日本一の売上を達成。10年5月にオープンしたユニクロ上海旗艦店の店長に抜擢され、好調な売れ行きをキープしている

可越（38）日中コミュニケーション取締役

94年に中国の大学を卒業し、来日。01年、東京大学大学院在学中にインターネット放送局「東京視点」を設立。04年に日本の官公庁・自治体・企業の中国向けPRコンサルティングなどを行う「日中コミュニケーション」を設立、日中交流を精力的に進めている

近藤秀和（34）Lunascape社長兼CEO

ウェブブラウザ「Lunascape」開発者。操作性に優れる日本発ブラウザ開発の第一人者として、スマホ対応のブラウザなどを世に送り出している

James Allard（45）米・日本食チェーン社長

弁護士をやめ、コロンビア大でMBAを取得。日本留学時に体験した日本文化を忘れられず、マイクロソフトを経て米国で回転ずしチェーンを創業。シアトルを中心に展開するBlue C Sushiは日本文化を米国に根付かせる原動力として全米でしばしば取り上げられる

塩野 誠（36）経営共創基盤マネージングディレクター ➡P15

清水 亮（35）ユビキタスエンターテインメント社長兼CEO

経済産業省が認定する「天才プログラマー」の一人。震災を機に高校、大学生にプログラミングを教える事業を始め、簡単にゲームを作れるプログラミング言語「enchant.js」を開発

関 治之（36）Georepublic Japan CEO

位置、地理情報を活用するメディア「ジオメディア」分野で活躍。東日本大震災後わずか4時間で、被災地の情報と地図を組み合わせたウェブサイト「sinsai.info」を立ち上げる

高島宏平（38）オイシックス社長

外資系大手コンサルタントのマッキンゼーを00年に退社後、食品専門ネット販売会社のオイシックスを立ち上げる。大震災を受け食への関心が高まる中、震災の1週間後から放射能検査を開始するなどして注目を集める

編集部・福井洋平　photo　本人提供、朝日新聞社（39ページも）

古屋将太（29）NPO法人環境エネルギー政策研究所研究員

デンマーク・オールボー大大学院博士課程計画・開発プログラム在籍中。専門は地域の自然エネルギーを軸とした環境エネルギー社会論。国内外の自然エネルギー政策や事例を調査・研究すると同時に、各地の地域主導型自然エネルギー事業開発の支援をおこなう

吉田 徹（36）北海道大大学院准教授(政治学)

日本貿易振興機構（ジェトロ）を経て東京大総合文化研究科博士課程修了。専門はヨーロッパ比較政治、フランス政治史。著作に『ミッテラン社会党の転換』『二大政党制批判論』『ポピュリズムを考える』など

スポーツ・文化

諫山 創（25）漫画家

人喰い巨人に人類が戦いを挑む「別冊少年マガジン」連載中の漫画「進撃の巨人」（09〜）が「このマンガがすごい！2011」オトコ編部門1位に。単行本は既刊6巻累計で660万部突破

石井裕也（28）映画監督

09年の監督作品「川の底からこんにちは」で最年少でブルーリボン監督賞を獲得。11年も「ハラがコレなんで」など意欲的に作品を発表しつづけている

伊原美代子（30）写真家

樋口健二氏に師事。故郷の房総半島で海女を撮り続ける。祖母と飼い猫の日常を切り取った「おばあちゃんと猫」を「DAYS JAPAN」に連載。震災後、日常の風景を残すために撮影を続ける。写真集に『みさおとふくまる』

AKBグループ アイドルグループ

「本家」AKB48は11年に発表したシングル5作品がすべてミリオンセラーに。名古屋の「SKE」、大阪の「NMB」、福岡の「HKT」に加え、インドネシア・ジャカルタにも派生ユニット「JKT48」が誕生するなど海外展開ももくろむ

佐藤真海（29）パラリンピック陸上選手

01年骨肉腫を発症、翌年右足膝下を切断し義足に。04年走り幅跳びでアテネパラリンピック出場（9位）。06年ワールドカップでは銅メダルを獲得し、08年北京パラリンピックに出場。現在、サントリービジネスエキスパートで次世代育成プログラムの運営に取り組むかたわら、ロンドンパラリンピックを目指す

澤 穂希（33）女子プロサッカー選手(MF)

日本女子サッカーを代表する名ミッドフィールダー。海外でのプレー経験もあり。11年には日本代表の中心選手として女子W杯優勝の立役者に。ロンドン五輪でも中心的存在として活躍が期待される

園 子温（50）映画監督

かつて詩人、パフォーマーとしても活躍。08年「愛のむきだし」はベルリン国際映画祭で国際批評家連盟賞を受賞。12年公開予定の映画「ヒミズ」では、主演した染谷将太と二階堂ふみがベネチア国際映画祭で新人賞を受賞した

ダルビッシュ有（25）プロ野球選手(投手)

北海道日本ハムファイターズに所属した11年シーズンは18勝6敗、防御率1.44、276奪三振で奪三振王を獲得。7年間で通算93勝38敗、防御率1.99と球界を代表するエースに。ポスティングシステムによる大リーグ移籍を表明

中村剛也（28）プロ野球選手(内野手)

埼玉西武ライオンズ所属。11年シーズンはボールが飛ばない「統一球」導入の影響で全体の本塁打数が4割近く減った中、パ・リーグ全体の本塁打数の約1割にあたる48本塁打を叩き出した。本塁打のシーズン日本記録の更新も期待される

錦織 圭（21）プロテニス選手

11年は世界ランク1位のノバク・ジョコビッチにスイス・インドアのシングルスで勝利するなど調子をあげ、日本人男子歴代最高となる世界ランク25位（12月19日現在）につける

ハーフナー・マイク（24）プロサッカー選手(FW)

オランダ・フィテッセ所属のフォワード。194センチの長身から繰り出すヘッドを武器に得点力を伸ばし、11年は日本代表に初招集され、W杯3次予選で代表初得点。日本躍進の鍵を握る

尹晶煥（38）Jリーグ・サガン鳥栖監督

元韓国代表でアトランタ五輪、日韓W杯に出場。06年からサガン鳥栖でプレー。引退後、ヘッドコーチなどを経て11年に監督就任。手堅い戦術で、99年のJ2創設時にあった10チーム中最後となる悲願のJ1昇格を果たした

渡辺 明（27）プロ棋士

11年9月に、19連覇中だった羽生善治を3連勝で破り王座を奪取、さらに竜王戦でも挑戦者を圧倒して8連覇を達成し2冠に輝く。ポスト羽生世代の筆頭として、初の名人位奪取を目指す

宮田麻理子（44）東京女子医科大医学部教授

中枢神経系のメカニズム解明に取り組む。損傷を受けた神経系がどのように再編されるかの研究などを通じて、脳障害後の代償機能を解き明かし、脳機能を回復させる治療法の開発などに生かそうとしている

政治・行政

小川淳也（40）民主党衆院議員

自治省（当時）を経て05年総選挙で初当選、現在2期目。総務政務官も務める。非正規雇用が常態化するなか、「どこへ移っても不利がない、どんな勤め方でも変わらない、すごくフラットな仕組みに変えてやればいい」とインタビューで発言

川邊健太郎（37）ヤフーメディアサービス本部部長、GyaO社長

06年に「Yahoo！みんなの政治」を立ち上げ、翌年「Yahoo！ニュース」「Yahoo！トピックス」などの責任者に。現在はヤフーの子会社、GyaO社長も兼ね、ネットでの映像配信事業に注力

桑原 悠（25）新潟県津南町議

地元の魚市場に就職が決まっていたが、11年3月の長野県北部地震で故郷である津南町が被害を受けたのを見て政治を志し、同年10月の町議選に東京大大学院生のまま立候補し、2位に2倍以上の票差をつけて当選した

鈴木英敬（37）三重県知事 ➡P34

高木美香（31）経済産業省クール・ジャパン海外戦略室長補佐 ➡P35

高橋亮平（35）松戸市審議監兼政策推進研究室長

元市川市議。全国若手市議の会会長、東京財団研究員、中央学院大学研究員など歴任。09年に市川市長選に出るも落選。10年に30代部長職として松戸市に入り、11年から現職。世代間格差問題の是正、若者の社会参画なども訴えている

仲川元庸（35）奈良市長 ➡P34

長谷川 岳（40）自民党参院議員

愛知県出身。北海道大に進学し、その後札幌で「YOSAKOIソーラン」立ち上げに加わる。10年参院選に自民党から立候補し、初当選（北海道選挙区）

樋渡啓祐（42）佐賀県武雄市長

総務省を経て06年に武雄市長に初当選、現在2期目。日本フェイスブック学会会長も務め、ソーシャルメディアを使った政治を提言。市のホームページもフェイスブックに移行させた

社会・言論

飯田泰之（36）駒澤大経済学部准教授

マクロ経済、経済政策が専門。リフレ論や経済成長論、格差問題などに関する論客として討論番組にもたびたび登場。著書に『経済学思考の技術』、共著に『昭和恐慌の研究』など

開沼 博（27）社会学者

福島県いわき市出身。著書『「フクシマ」論 原子力ムラはなぜ生まれたのか』で第65回毎日出版文化賞を受賞

國分功一郎（37）高崎経済大准教授(哲学)

専門は哲学、フランス現代思想。東京大「共生のための国際哲学教育研究センター」共同研究員。著書『スピノザの方法』『暇と退屈の倫理学』など

菅原 琢（35）東京大特任准教授(政治学)

専門は現代日本政治、政治過程論。06年10月から現職。著書に『世論の曲解――なぜ自民党は大敗したのか』、共著に『変貌する日本政治』など

鈴木 亘（41）学習院大教授(社会保障)

日銀勤務を経て現職。専門は社会保障、医療経済学、福祉経済学。年金や医療、介護問題について経済学の観点から分析。著書に『年金は本当にもらえるのか？』など

瀧本哲史（非公開）京都大客員准教授(イノベーション・マネジメント・サイエンス研究部門)

東京大助手を経てマッキンゼーに就職。独立後は日本交通の再建などを手がける。08年から現職、『僕は君たちに武器を配りたい』『武器としての決断思考』で単著デビュー

濱野智史（31）批評家

株式会社日本技芸リサーチャー。インターネットコミュニティー論を中心に、メディア論について活発に発言を続けている。著書に『アーキテクチャの生態系』など

古市憲寿（26）社会学者

東京大大学院総合文化研究科博士課程在籍、慶応大SFC研究所上席所員。有限会社ゼント執行役員としてマーケティング立案などにもかかわる。著書に『希望難民ご一行様』（共著）、『絶望の国の幸福な若者たち』

山本 繁（33）NPO法人NEWVERY理事長

「日本中退予防研究所」「トキワ荘プロジェクト」の活動を通じ、大学改革やクリエイター育成に取り組むNPO法人の代表。また、豊島区と若者向け「おとな大学」を運営している

生活

川添高志（29）ケアプロ社長 ➡P33

須田光照（40）全国一般東京東部労組書記長

新聞記者を経て06年から同労組専従に。社会の格差や貧困の問題が深刻になる中、過労死、名ばかり管理職、内定切りなど多くの現場で弱者を支援する。NPO労働相談センター副理事長として、労働者の電話相談も受ける

Pieter Franken（44）SAFECAST代表、マネックス証券常務 ➡P14

国際

金平直人（34）世界銀行機構改革事務局エコノミスト、NPO法人ソケット代表理事

マッキンゼー、国連開発計画、コソボ欧州連合特別代表部を経て世界銀行入行。先進国・途上国間での産業競争力・イノベーション政策を手掛けた後、世銀の改革全般をサポート。また、NPO法人ソケットの代表理事として、途上国向け事業構築のインキュベートを行う

白木夏子（30）ジュエリーブランドHASUNA社長兼チーフデザイナー

短大卒業後に英国に留学、国際機関、投資ファンド会社勤務を経て09年に環境や社会に配慮した素材でつくる「エシカルジュエリー」の会社を起業。11年、東京・南青山に直営店をオープン

瀬谷ルミ子（34）認定NPO法人日本紛争予防センター(JCCP)事務局長 ➡P13

中村俊裕（37）米NPOコペルニク共同創設者兼CEO

マッキンゼーなどを経て国連開発計画で東ティモールやシエラレオネで活動。10年、休職して創業。途上国のニーズに沿った技術をウェブで公開し、賛同者から資金を集めて普及させるプロジェクトが11カ国で進行中

吉岡利代（27）国際NGOヒューマン・ライツ・ウオッチ東京オフィス シニアアソシエート

米留学後、ゴールドマン・サックス証券を経て国連難民高等弁務官事務所で日本国内の難民申請者の保護活動に従事。09年に現職につき、日本政府に対して人権に関する政策提言を行っている

法曹

雨宮美季（36）AZX総合法律事務所弁護士 ➡P31

外岡 潤（31）弁護士、法律事務所「おかげさま」代表

東京・巣鴨に介護訴訟に詳しい法律事務所「おかげさま」を立ち上げ、代表に。そのほか、渋谷の道玄坂にバー「リーガルバー・六法」を立ち上げバーテンダーとして立つ（現在は閉店）など、法曹界と一般社会を近づける試みにチャレンジしている

元榮太一郎（36）弁護士、オーセンスグループ代表

ビジネスロイヤーとして活躍していたが、「インターネットで法律をもっと身近に、もっと便利に。」を理念に、05年に「オーセンスグループ」を設立し、日本初で国内最大級の法律相談ポータルサイト「弁護士ドットコム」の運営を開始

科学

稲見昌彦（39）慶応大大学院メディアデザイン研究科教授(バーチャルリアリティ)

バーチャルリアリティやロボットなど、人間と技術とのつながりをテーマに研究。透明人間を工学的に実現させる「光学迷彩」というシステムを世界に先駆け開発するなど、情報技術と現実世界を融合させる成果を出す

上田泰己（36）理化学研究所発生・再生科学総合研究センタープロジェクトリーダー ➡P29

上川内あづさ（36）名古屋大大学院教授 ➡P30

斎藤通紀（41）京都大大学院教授 ➡P30

堀 正樹（39）独マックスプランク量子光学研究所グループリーダー

素粒子物理学者。反物質の質量を正確に測定する手法の開発など、物理現象の根源を解明する顕著な業績をあげる。ヨーロッパ科学財団から若手研究者賞を日本人として初受賞。欧州合同原子核研究機構（CERN）の反陽子原子プロジェクトリーダーも兼任

松尾 豊（36）東京大大学院工学系研究科准教授

人工知能の分野では世界のトップ。人工知能を利用したファンドを作り、日経平均だけでプラス20%の運用成績をあげた